

# 本物の森ガールを目指して

「仕事は、楽しい！」と明るく話すのは、広島県出身の女性、新谷悠さん。大学院を卒業後、平成25年4月に大田市森林組合に就職しました。

「男性の職場」というイメージの強い林業の世界へ、足を踏み入れた力強い女性を紹介します。



▲チェーンソーを巧みに使って木を伐採する新谷さん。

## やりたい事を仕事に

新谷さんは、大学院で植物病理学を学び、稲の病気や木の病気などについて研究をしていました。「就職するなら樹木に関わる職に就きたい」と考え、森林組合の募集を知り、すぐに応募したそうです。

「男性の職場」というイメージの強い林業の仕事に就くことに抵抗はなかったそうです。それよりも、自分の興味があること、やりたいことを仕事にすることの方が重要だと新谷さんは語ります。



新谷 悠さん (26歳)

広島県出身。大学院を卒業後、大田市森林組合に就職。

就職後、国の制度を利用し研修などの支援を受けています。研修では、重機やチェーンソーなどの仕事に必要な専門的な技術を学び、実際の現場に出て鍛えあげられています。

## 辛い時こそ笑顔で

「笑つとかんとやれん。体力的に辛い時でも、笑っていれば辛くはない」と明るく話す新谷さん。

仕事は、実際に現場に出て、木の伐採などを行っています。そのため、体力的に辛いことが多い様子ですが笑っていれば、気持ちがあくじけることは無いと語ります。

その明るさは、自他ともに



(写真) 重機を操作する新谷さん。女性が操作する方が上手いと職場の先輩は言います。

## 職場に新しい風を!

認めるもので、職場の人も「根が明るいのですぐに馴染んでいた」とのこと。

大田市森林組合参事の林達夫さんは「新谷さんには、職場に新しい風を吹かしてほしい。今までは、島根県内の人の採用を続けてきたが、新谷さんのような県外出身者の採用をすることで、今までにない、新しい発想や要素などを取り入れてほしい」と語り、新谷さんに期待を込めています。

# 酪農家に憧れて！

大田市へIターンをした鳥根県雲南市出身の内田早紀さんは、温泉津町にある吉浦牧場へ平成26年4月から働き始めました。酪農家に憧れて牧場へ就職した内田さんを紹介します。

内田さんが酪農の仕事に興味を持ったのは、中学生の頃。テレビで放送された北海道の広い牧草地で行われる酪農の仕事を見て、この仕事に憧れるようになったとのこと。中学、高校での職場体験は、牧場に体験をする程、子どもの頃から、牧場での仕事を夢みていたようです。

大学では、農学部へ進学し、酪農に必要な知識や技術を学び、家畜人工授精師



(写真) 牧場での仕事は、力仕事が多い。また、重機の運転が必要な場面もあります。



## きっかけは北海道

### 毎日が勉強！

「吉浦牧場は、大きくて驚いた」と話す内田さん。吉浦牧場の約1200頭の牛の数に驚きを隠せなかったそうです。

現在の仕事は、牛舎の掃除や搾乳などの仕事を任

### 酪農の基盤は子牛

「子牛の世話の担当者が休みの時は、世話を任されることがあり、病気などに気をつけることが大変。でも、酪農の基盤は、子牛であり、上手く管理し子牛を育てることが酪農を支えて

吉浦牧場。約1200頭の牛を飼育する中国地方最大級のメガファーム。年間で約800頭の牛が誕生する。



いるんだと仕事を任されることで、実感した」と話します。

今後は、家畜人工授精師の資格を活かし、人工授精の仕事など子牛に関わる仕事をしたいと話す内田さん、今年の4月から子牛の哺乳の担当を任されるとのこと。「少しプレッシャーを感じているけど、自分の育てた子牛が元気に成長することを目指して頑張りたい」とこれからの目標を語りました。



内田早紀さん (23歳)

鳥根県雲南市出身。宮崎の大学を卒業後、大田市温泉津町の吉浦牧場へ就職。

牧場の寮で暮らし、休日は、実家のある雲南にもどり、友人たちと遊ぶとのこと。中学・高校・大学と柔道部に所属していたという意外な一面もあります。